

七友会 だより

「大畑先生を偲んで」

昭和55年度卒業 欧米思想史専攻 佐藤 優

私は、大畑研究室の第一期生として先生のご指導を受けました。私たち研究室の学生は度々先生のご自宅に招かれては奥様の手料理を頂き、酒席を共にしていただきました。先生のお酒は、陽気で楽しいものでした。

先生は、お酒が進むと、御自身が大学を卒業後、戦後の農村復興活動を志して帰郷する時のお話をよくしてくれました。帰郷する夜汽車の中で偶然隣り合わせた人に声を掛けられ、自分の志を熱く語ったところ、その人物は地元の大学の学長だったそうです。もう一度、これからの自分の人生をよく考えて一度訪ねてくるようにと名刺を渡され、それが先生の教職の道に進んだきっかけだったそうです。

先生の講義は、「自由」、「道徳と倫理」、「愛」という概念をギリシャ哲学から近代哲学までの哲学者の考察を踏まえ、先生の持論を展開する形で行われていましたが、その語りかたは、押し付けるものではなく、私たち学生の自己啓発を求めるものでした。偶然隣り合わせた人物が先生の人生の転機になったと同じように、先生もまた、私たち学生を暖かく見守る姿勢に徹していたと思います。

私はフッソール現象学に非常に興味を持ち是非卒論のテーマにしたいと思い、その旨を先生に申し出たところ、先生は早速私を哲学研究室の小池教授と中村助教授からご指導を受けられるように計らってくださいました。私は、賛沢にも3人の指導教授に恵まれ、学生時代を過ごすことが出来ました。哲学三昧の学生時代は、今になっては、掛け替えのない自分の財産になっていると実感しています。

大畑先生、小池先生、中村先生と惜しくも3人の恩師が鬼籍に入られました。今、卒業してからこそ、もっと酒席を共にし、お話を聞きたかったと思います。

1年生の最初の講義で藤村操が「人生これ不可解成り」と言って華嚴の滝に投身した下りの先生の熱い話に引き込まれ、最初のコンパで先生に欧米思想史を専攻することを御願ひした若き自分を思い出しながら、今再び先生の論文を読んでいます。

先生の達筆な年賀状がもう来ないかと思うととても残念ですが、あらためて、ご冥福をお祈りいたします。有難うございました。

大畑莊一先生は、平成24年10月22日 亡くなられました。

享年92才。先生には、同窓会設立当時からお世話になり、同窓会顧問をお願いしていました。同窓会会報「七友会だより」の第一号の題字も大畑先生に書いていただきました。同窓会にはよく出席され、創立20周年記念の同窓会が、最後の姿となってしまいました。御冥福をお祈りします。

目次

大畑先生を偲んで…………… 1

定年退任を迎えて …… 2

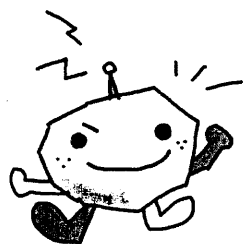
2年生向け「キャリア …… 3
ガイダンス」を開催

会員の皆さん、連絡先 …… 4
をお知らせ下さい

「卒業生・修了生と学長との懇談会 …… 4
(第6回)」を7月に盛岡で開催

新学部長に長野俊一教 …… 4
授が選ばれる

同窓生3人目の学部教 …… 4
員誕生!



iwate
University
岩手大学

定年退任を迎えて

国際文化課程・欧米言語文化コース（旧：地域文化コース・欧米研究講座）

教授 佐藤 芳彦



平成25=2013年を迎え、今、3月末の定年退任を前にして思うことを一言でいえば、やはり、「感謝」かな？まず岩手の大地、とりわけ「岩手山」に対して、その中心にある岩手大学、とりわけ人文社会科学部に対して、なかでも現：国際文化課程・欧米言語文化コース（旧：地域文化コース・欧米研究講座）、とりわけ「欧米史」専攻（研究領域）の創設以来の卒業学生（院生）合計230余人に対して、わが人生における充実した教育・研究生活を「ありがとう」と！

・人文社会科学部の完成年度たる昭和55=1980年度の着任当時について。

本学部創設4年目の完成年度たる昭和55=1980年度に着任した当時のことは、第1印象として今も脳裏に残っている。

前任地の仙台（東北大学文学部）から3月末、高速道路上で盛岡に近づく車窓から見た秀峰「岩手山」の雪に覆われて聳え立つその勇姿は、海岸育ちの私にとって実に感動的であり、これからこの地で励もうとする歴史学徒に語りかけてくるようであった。「学問とは孤独な労働であり、研究者はその孤独に耐えねばならない」、と。岩手大学キャンパスの正面から中に入ると、ひときわ目立つ老桜樹の並木道、それを経て、完成したばかりの本学部1号館3Fの「欧米史研究室」、その北側の窓からも（5号館のない当時）「岩手山」の頂が見え、感動を新たな決意に生かした。

「欧米史」初代担当の（私の東北大学教養部時代の恩師でもある）故西村貞二教授のご高名下に集っていた「欧米史」専攻の（本同窓会の佐原会長を含む）4年次生、そして3年次生の10数名との出会いも、彼らが単にそれぞれ各地出身で個性的であるのみならず、（岩手大学=入試上では東北地方では東北大学とともに旧「一期校」であった伝統を継承してか）優秀でもあり、それ以来の教育と研究の「相互規定的関係」を構築し維持する上でも、忘れ難い。

・授業、特に「特別研究」について。

教養科目の授業については、着任後（共通教育が全学体制になる前）には、農学部と工学部の2年次生以上を対象とする時間帯に教養科目「欧米史」を開講し、彼らに資本制的生産過程の世界史的展開についての基礎的知識として「農業革命」や「産業革命」等を中心に講義していた。その後、全学体制になって以来、理系と文系双方の1年次生を対象とする時間帯に共通科目「欧米の歴史と文化」として、「文化」編と「歴史」編の2部構成で講義をしているが、その場合、20世紀末「ICT（情報通信技術）革命」という新たな生産力的発展に基づく、「グローバリゼーション」の進展する現状を理解する基礎知識として、新たに「文化」編を導入して、われわれの住む「アジア・日本の文化（稲作、仏教=多神教の文化）」との対比で、「欧米の文化（麦作、キリスト教等=一神教の文化）」それぞれの独自性、その規定要因等を講義している。このような東西文化の比較史的講義に対して、入学間もない1年次生の「眼の輝き」に毎回毎回、引きつけられ、講義する「喜び」を実感し、教授することの醍醐味を味わっている。それに感謝したい。

専門の授業では、講義と特講、とりわけ後者では自分の研究と不可分の関連で講義し、学生の理解度を確認しつつ、内容の論理展開を再確認する機会にしていた。また欧文文献を使用するゼミでは、新たな欧文文献・論文を精読・問題発見する機会にしていた。邦文のゼミでは、欧米史専攻生が、全く自由に、自分の特別研究と関連するテーマの文献・論文を使用したのが、視野の拡大、深化の機会にもなった。そしてとりわけ「特別研究については、4年間の学問的総決算」として位置付けたうえで、専攻生が（日本史やアジア史固有のテーマ以外、地域的にも時代的にも全く自由に）対象を選択しつつ、自ら「問題発見とその解明」を通して、「論理性、実証性、そして独自性」を深めるべく指導した。特に「修士論文」の指導過程で新たに得た視野、知見は、自分の研究領域の視野の拡大、深化にも有益であった。それにも感謝したい。

これら「欧米史」専攻=領域の「特別研究」約230編、「修士論文」約10編の全ては、欧米研究講座以来の1号館3F「資料室」のキャビネットに保管しているが、それを見るたび、当時の学生諸君の顔が目に見え、今は、どこで何を…と思いつつ。

・研究：近代イギリス財政史的=国制史的研究と財政民主主義について。

2011.3.11「東日本大震災（・原発事故）」後、郷里「気仙沼」を含む沿岸地域の惨状を前にして、結局6カ月間余、能動的な研究活動は事実上停止状態であったが、（被災した知人・友人の無念を思い、鎮魂と冥福を祈りつつ）幸いにも生きている自分の30余年間の研究生活を「総括」するべく、2012年4月『近代イギリス財政史的=国制史的研究と財政民主主義』（B5判225頁）を作成し、末尾にその思いを記載した。「最終講義」後に「岩手大学リポジトリ」として公開予定しているので、(CiNiiやその他の検索サイトを利用して)参照されたい。

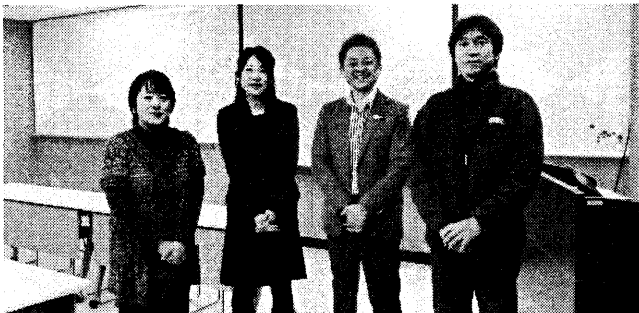
本学・本学部の、そして同窓生各位の、新たな展開を祈りつつ。

2年生向け「キャリアガイダンス」を開催

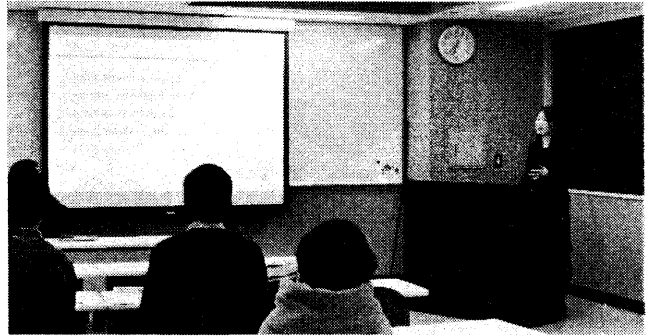
去る2月22日(金)、『「キャリアガイダンス」～働くことを考える～第2回』を開催しました。これは、同窓会と学部就職委員会と共同で開催するもので、第1部は、講師の方々に、それぞれの仕事や経験を通して、今学生に伝えたいことを話していただきました。第2部のテーブルトークでは、質問や疑問、悩みについて自由に話し合いました。今回の講師は、足立慎悟氏(株)相鉄エージェンシー)、高橋真樹氏(株)のびあ代表取締役)、西條由依氏(日本全薬工業(株))、菅原剛氏(株)JTBCコーポレートセールス)の4名で他に7名がオブザーバーとして参加しました。

足立慎悟さん 広告代理店でウェブデザインの仕事をしていますが、仕事の内容を交えながら、学生に伝えたいことを次のように話しました。大学を卒業し就職するということは、不安ではあるが、なれるかもしれない様々な未来像がそこにはある。その中から、自身の「道」をみつめていく一つの方法として、まず5年～10年後の自身のビジョンを持つこと。そうすれば、まずと何を試すべきかがみつき、道が見えてくる。それを実現するためのリサーチや計画が重要になってくるが、もっとも大事なものは「動く」ことだ。大学生のうちに小さなことでもいいから、何かやりたいことを計画し、やり遂げる…という実体験をしてほしい。働くことの原型がそこにある。『大事なものは洞察力とフットワーク、禁物は予断』という自身の考えを伝えました。

高橋真樹さん 長く勤めた会社を退職し、働く女性の立場をサポートする会社を起業した経緯を話しました。学生の頃は、雑誌編集者になりたかったといいます。就職活動では、残念ながら内定は得られず、そんな時、中央(東京)と同じ条件(給与や制度など)で支店採用となる「ノエビア」の内定を得ることができ就職。当初は、代理店の指導などをしていましたが、思っていた以上におもしろく、徐々に会社の中でも中心的な立場になり、楽しく、充実していた。ところが、盛岡支店が仙台に統合されることになり、悩んだけれども、仕事がおもしろかったので、仙台への新幹線通勤をすることにした。その間に、結婚、出産、育児を会社の制度を使って乗り切ってきたが、家族の状況の変化を考えて、意を決して40代で退社。しかし、暫くして再就職を考えたところ、いくらキャリアがあっても難しい現実と直面し、ならば…と起業。女性が働くうえで、障害になりそうな様々なことをサポートする仕事をしている。女子学生には、仕事を選ぶ時に結婚や出産、育児、そして介護のことなども頭の隅に入れて考えてほしい…と話しました。



今回の講師の方々です
左から 高橋真樹さん、西條由依さん、菅原剛さん、足立慎悟さん



西條由依さん 日本全薬工業(株)という動物薬の開発・生産・販売を一括して行っている全国規模の会社で、人事総務部、人事チームの一員として社員の労務管理や社員教育等を担当しています。入社5年目という学生に比較的近い立場から、就職活動の頃を思い返し、今伝えたいことを話しました。学部では、環境科学課程に所属し、カキの貝殻の持つ浄化作用などの特性を生かして、和紙に渡き込む研究をしていました。研究とは違った現在の会社を選んだ理由は、動物が好きだったこと、面接等を通して自分を理解してもらえる会社だと感じたこと、そして、「働く」ということは、経済的自立であり、やりがいを持ち、社会貢献を通して、自身が成長することだと考え、そのために新しい事への挑戦や感謝の気持ちを持って仕事をすることを心掛けているといいます。

菅原 剛さん 現在は(株)JTBCコーポレートセールスというJTBCグループの中核の会社で働いています。入社は、盛岡支店で当初は修学旅行などの団体旅行の企画や添乗などを行い、また、国際会議や学会の営業もしたようです。その後、東京の支店へ移り、法人関係のイベントや旅行などの営業を担当しています。特に、東日本大震災後に企画・運営した「東北ボランティアサポートプラン」は各方面から好評を得、「日経Bizアカデミー」でも取り上げられています。大学時代は、ホテルでのバイト代を好きなファッションに使っていたといいます。3年の時に行ったヨーロッパ旅行が価値観を大きく変えたといいます。そして、偶然受けたJTBCの面接官の人柄や生き方が素敵に見えて、勤めたいと思ったといいます。仕事のスタンスは「会社を使って、いかにプライベートを楽しむか」。そのために、仕事に様々な工夫をして、激しく、熱く、濃く仕事をして、毎年、長期休暇を取り、旅を楽しんでいるといいます。「前向きに考えて動いていると、不思議と出来ていくもの」だといひ、学生には「自分の考えを、いかに熱く語れるか」が、出来るよう、心掛けてほしいと話しました。

今回は、2年生を対象とし、周知にあまり時間がなかったこともあり、学生の参加は6名でしたが、テーブルトークでは様々な悩みに具体的な意見や指摘があり、予定時間を越えて、20時すぎまで歓談が続きました。

※オブザーバー参加者 黒沢(公務)、晴山(専門)、大志田(一般)、佐藤(公務)、内堀(一般)、吉田(公務)、佐原(七友会・司会)
学部参加者 井上、竹村、内田、松岡
(文・佐原)

現在、毎年、同窓会と就職委員会が共同で「学部就職ガイダンス」を開催しています。これは、就職活動に入る前の3年生を対象に、内定者などと体験談を語り合うものです。11月頃に開催しているものです。それに対して、今回のガイダンスは、同窓会が様々な仕事の実像を伝えることで、学生の進路や就職を考える際の選択肢を広げてもらうことを目的としています。

新年度でも年2回(6月と2月頃)を予定していますので、積極的に講師やオブザーバーとして参加できる方を募集しています。毎回、違った職業の方を講師に考えていますので、事務局からお願いする時もありますので会員の皆さんの御協力をお願いします。

今後の予定 ・「キャリアガイダンス」2・3年生対象…①平成25年6月頃 ②平成26年2月頃
・「就職ガイダンス」3年生対象……………平成25年11月頃

会員の皆さん、連絡先をお知らせ下さい

同窓会では、毎年このような会報を発行しています。これらを皆さんに送るためには、連絡先の把握が重要になりますが、転居等で連絡先が不明になることが多く、現在、4割強の方が不明状態になっています。

連絡先は現住所でも実家等家族住所でも構いませんが、確実に連絡のつくところをお願いします。転居等の際には郵便局への届出と共に、事務局へもお知らせ下さい。

なお、寄せられた情報は同窓会活動のみに利用されるもので、事務局で一括管理されています。また、会費については、ほとんどの方が入学時に納められていますので、特に請求されることはありません。同窓会活動は、ほとんど会員のボランティアで運営されています。今後の学部の発展及び同窓会の親睦のための活動に、ぜひ御協力下さい。

※友人で会報の届いていない方は、連絡先不明になっている可能性があります。すぐに事務局までお知らせ下さい。

連絡先情報

ふりがな 氏名 (男・女)	卒業 専攻	期 (S H 年 月卒) (C O L L E G E 年 月卒) 研究 進 修 等	封筒にある整理番号 No. _____
現住所 〒			
(自宅) TEL FAX	携帯	勤務先名等 (可能なかぎり)	
E-mail			
家族等連絡先 〒			

『卒業生・修了生と学長との懇談会 (第6回)』を7月に盛岡で開催

この懇談会は、社会で活躍する卒業生・修了生に大学が進める改革や取組を伝えるとともに、大学の教育・研究・社会貢献に対する率直な意見を聞く機会として開催します。

2008年の盛岡市での開催を皮切りに、八戸市、仙台市、札幌市、そして東京都において開催してきました。ただ、第1回の盛岡市での開催は、出席者を盛岡市役所職員等に限定して行われた経緯もあり、今一度原点に立ち返って地元・盛岡市で開催することにしました。多くの方の参加をお願いします。

主 催：岩手大学・岩手大学同窓会連合
日 程：平成25年7月13日(土) 15:00～
会 場：ホテルメトロポリタン盛岡(本館・4階)
出席者：卒業生・修了生・盛岡市及びその近郊の在住者(4同窓会会員)

- ・岩手大学…学長・理事・副学長・学部長・教職員
- ・同窓会連合…連合会長・各同窓会長

〈大学構内の見学(予定)〉：13:00～14:15
懇談会…大学の現状紹介と意見交換：15:00～17:00
次第

1. 開会
2. 出席者の紹介
3. 学長からの挨拶
4. 同窓会連合会長からの挨拶
5. 大学の現状と主な取組についての紹介
6. 各学部の取組現状についての紹介
7. 岩手大学の教育・研究・社会貢献について懇談・意見交換
8. 各同窓会長からの挨拶
9. 閉会

懇親交流会(会費制)：17:30～19:00
次第

1. 開会
2. 学長からの挨拶
3. 乾杯
4. 懇談
5. 学生歌斉唱
6. 閉会

新学部長に長野俊一教授が選ばれる



3月31日付で辞任する井上博夫学部長の後任選挙が行われ、人文社会科学部の長野俊一教授が選出されました。長野教授は、大阪府大阪市出身の63才で、大阪外国語大学大学院外国語研究科修士課程を終了後、昭和58年4月より人文社会科学部講師として着任。平成11年4月からは教授となり、主にロシア文学を担当しています。学部長の任期は平成25年4月から平成27年3月までの2年間となります。

よろしくお祈りします。

同窓生3人目の学部教員誕生!

この度、同窓生として3人目の学部教員が誕生しましたのでご紹介します。

— 鈴木 護 氏 —

2012年10月、人間科学課程行動科学コース社会心理学担当の准教授として赴任。1992年人文社会科学部卒。

当時の国家公務員採用試験I種(心理)採用で、科学警察研究所に配属。20年間勤務し、犯罪行動科学部犯罪予防研究室主任研究官からの転職です。在職中に、シカゴ大学大学院、ペンシルベニア大学大学院に留学。学問的な研究を積んでこられました。専門は犯罪心理学、犯罪者プロファイリング、振り込め詐欺、犯罪不安感、少年非行などの研究を行っています。全学共通教育科目の「対人関係の心理」や専門科目の「犯罪社会心理学」「社会心理学」などの講義を担当します。

岩手大学人文社会科学部同窓会 <七友会>

〔郵便宛先〕020-8550 盛岡市上田3-18-34
岩手大学 人文社会科学部内「七友会」宛
〔事務局〕Tel(留守録)& Fax: 047-336-3945
E-mail: jimuj@jinsya.com

ホームページもご覧ください!

http://www.shichiyukai.net/
http://www.jinsya.com/〔関東支部〕